



出張報告書

令和5年3月14日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
 代表者氏名 辻 信行
 出張者氏名 池田りな、長崎くみ、
 寺井大地

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和5年2月9日から令和5年2月9日まで

2 結果の概要

用務先	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 インクルーシブ公園の見学 2 不登校支援について 3 4 5
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張調査報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 精 算

- 精算額は、令和5年1月20日届け出た額 (96, 240円) と同一額である。
- 届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

出張調査報告書

視察日：2023年2月9日

尼崎市議会議員 池田 りな

視察先①：東京都豊島区「としまキッズパーク」

視察内容：インクルーシブ公園について

視察目的：尼崎市のインクルーシブ公園設置に向けて参考にするため

インクルーシブ(包括的な)公園とは、障がいにより体が不自由な子や体幹が弱い子や乳児なども遊ぶことができる遊具や施設があり、且つ誰もが利用できる公園のことです。2020年2月、世田谷区都立砧公園内に日本初の『インクルーシブ公園』が開園しました。その後、全国でインクルーシブ公園を整備しようという気運が盛り上がっています。

2020年9月、東京都豊島区に「としまキッズパーク」が開園しました。車いすに乗ったまま遊べる砂場や、横転の心配のない安全なブランコなどを設置しています。音が苦手な子どもたちにも配慮して静かに過ごせる図書館も備えています。親子が一緒に乗れるよう幅が広い滑り台や車いすに乗ったまま遊べる砂場、日差しが直接当たらず遊べる屋根付きのキッズハウスも設けられています。障がいの有無に関わらず遊べる工夫が凝らされています。

視察を通して3点感じることがありました。1点目は『インクルーシブ公園とは障がいの有無に関わらずみんなが遊べる公園であること』です。視察した日は、目に見える障がいを持ったお子さんの公園利用はありませんでしたが、「としまキッズパーク」の遊具は誰もが利用しやすい遊具を設置しているため、障がいの有無に関わらずみんなが遊んでいました。

2点目は『インクルーシブ公園を設置するときには、公園周辺の整備もセットで行うこと』です。公園の隣接エリアには、清潔な多目的トイレやおむつ替えや授乳スペース、車いすやベビーカーでも利用しやすい飲食店があり、非常に利用しやすい環境にありました。

3点目は『テーマを持った対象を明確にした公園の設置が必要であること』です。尼崎市においても公園の大規模整備に合わせて、「乳幼児が遊べる公園」「障がいを持ったお子さんが遊べる公園」「ボール遊びができる公園」など特色ある公園を作っていくべきだと感じました。

最後に『尼崎市のインクルーシブ公園設置』についてです。2022年度あまらぶチャレンジ事業では、インクルーシブな遊び場「みーんなの公園」設置を目指す団体が採択されました。市内でワークショップなどが開催されていますので私も引き続き、尼崎市のインクルーシブ公園設置実現に向けて議会で提案をして参ります。



インクルーシブな絵本コーナー（点字の絵本）



公園内で本が読める区立図書館



筋力が弱い子どもも乗れるブランコ



清潔なトイレ



公園の隣接エリアに授乳室

視察先②：東京都葛飾区「東京シューレ葛飾中学校」

視察内容：不登校特例校について

視察目的：不登校生の多様な学びの場について研究するため。

不登校特例校とは、学習指導要領にとらわれない不登校生の実態に配慮した特別な教育課程を持つ学校です。政府は、2022年6月「経済財政運営と改革の基本方針」で全国都道府県への不登校特例校の設置を明記しました。不登校特例校とフリースクールの違いは、公的資金の導入があることや元の学校から転校でき、通常と同じ卒業資格を得られる等が挙げられます。

2007年4月東京シューレ葛飾中学校は、不登校支援の私立中学校として開校されました。葛飾区の「地域連携・のびのび型学校による未来人材育成特区」により、同区から校舎・校地を仮受け、行政・地元地域の参加教育で実現しました。文部科学省による「特別の教育課程編成実施指定校」となった正規の中学校です。「普通教育機会確保法」の第十条に基づく不登校特例校になります。

視察を通じて、3点感じたことを書きます。1点目は『不登校になっている子どもたちには様々な学びの場が必要であること』です。通っていた学校の別室で勉強したい子ども、家族以外

と関わらず家で心身を充電したい子ども、今までとは違う学校でもう1度挑戦したい子どももいます。尼崎市においても、『夜間中学校を不登校特例校にする』『ほっとすてっぷの定員を増やす』『校内フリースクールをつくる』『民間のフリースクールを誘致する』などできることがたくさんあります。学校にいきづらい子どもたちの学びの場を早急に確保していくべきだと感じました。

2点目は、学校教育の中で「自らがとことん好きなことを体験して子どもたちの自主性や社会性を伸ばす」ことです。東京シューレ葛飾中学校では、体験から学ぶ時間を重視し、選んで参加するプログラムAいろいろタイムBプロジェクトCそれぞれの活動の時間（放課後）があります。30年前から体験学習を続ける「きのくに子どもの学園」がテーマの映画「夢みる小学校」においても、子どもたちが自分の選択した体験に没頭する、そしてその先に出てきた夢を叶えるために必要な勉強をする。やらされる勉強ではなく学びたいから子どもたちが学ぶ。そして夢を叶える。東京シューレ葛飾中学校の卒業生も体験活動を通じて、料理に没頭して料理人になったり、将棋が好きで将棋の講師になった卒業生が紹介されていました。

3点目は、学校の至るところに学校に行きづらい生徒が過ごしやすいような仕掛けがありました。一例をあげますと小学校の学習に遅れがある生徒も多いので、6年間を一気に学びなおせるような手作りの漢字や計算プリントがありました。他にも、家で学ぶホームスクーリングの生徒が登校する部屋は、人に会わないように校門から直接上がって来られる場所に設置する工夫もありました。学校は廃校した校舎を利用しているため、決して綺麗ではありませんが先生や保護者が子どもたちのために手作りで作った温かみのある学校でした。

最後に、尼崎市においても令和3年度不登校児童351名、不登校生徒676名が報告されています。これは文部科学省の定義で、1年に30日以上学校を休んだ子どもの数です。学校の門をくぐると登校に見なされるため、保健室登校などは数に含まれていません。実際には、1027名よりもっと多い数の子どもたちが、学校に行けず学びの機会を失っています。



出張調査報告書

日本維新の会 長崎 くみ

出張日:2023年2月9日(木)

(1) 東京都豊島区 としまキッズパーク

【所感】

豊島区のイケ・サンパークというフェーズフリー公園内にある「小さな子どもたちの公園」というのがとしまキッズパーク。

フェーズフリー公園は、平常時には賑わいを、そして災害時には地域の一時避難場所、ヘリポートや救援物資の受入拠点、防災倉庫や災害用トイレなどの災害対応設備がある。

豊島区は環境省・国土交通省が推進している「グリーンスローモビリティ」が導入されており、最高速度19km/hで走る乗車定員22名の小型電気バス「IKEBUS」が視察中にとしまキッズパークに到着した。「IKEBUS」は誰でも利用でき、車両後部には車いす用昇降機を装備した車両になっている。車両のデザインは数々の観光列車を手掛けた水戸岡鋭治さんであり、イケ・サンパーク、としまキッズパーク、IKEBUSは同じ赤色を使用し、おしゃれでかわいいといった印象。

としまキッズパークは指定管理の職員がパーク内に数人いて、園内中央にあるミニトレインの運転やブランコ、滑り台などの遊具で遊ぶ子どもたちの安全を見守っている。そこにいた職員さんの多くがシルバー世代の方々だったが、注意事項も子どもにわかるようにやさしく、楽しそうに説明されていた。

ミニトレインは入り口でもらった乗車券を見せて親子で乗車でき、私も乗車したが、小さな子供たちが前の手すりをもってしっかりと座っている姿に、このような遊具が無料で利用できることは子どもの成長に良いなと感じた。

インクルーシブ公園とはどのようなものかと思い視察先としたが、点字の絵本があったり、木のボールや木のおもちゃ、親子で滑れる滑り台やブランコ(子ども用だけもある)など、大人も子どもも一緒に遊具で遊べる施設だった。1歳くらいの子どものみがブランコに一人で乗るには通常のブランコの形状では難しいと思うが、ここのブランコは前に安全バーがあり、一人でしっかりとブランコのチェーンを握り、お母さんにブランコを押してもらっている姿が印象的だった。

子ども1人につき、祖父母・両親のように大人が4人ついてきても良いという世代間の交流も楽しめるところだった。期間限定設置とのことだが、フェーズフリー公園と区内を巡回しているグリーンスローモビリティ、インクルーシブ公園とが一体設計となっており、安心・安全そして、行ってみたいくなる工夫が感じられた。人々が集いたくなるようなデザインや設計の重要性も学べた。

多様性を大切に、そして一人一人の個性を育てていく街には多くの人々が定住したいと思えるのではと感じた。

尼崎市の今後の公園の在り方を考えるのに参考となった。

(2) 東京都葛飾区 東京シューレ葛飾中学校

【所感】

不登校特例校は全国で21校あり、今回は開校15周年を迎えた東京シューレ学園を視察。学園の土台がフリースクールであり、「学校に合わせて子どもを育てるのではなく、子どもに合わせて学校を作りたい」という思いからの開校。

学園が考える子ども中心とは2つの側面を持つ

- ①学校づくりにできるだけ子どもが参画し、自ら学び育つ私を自ら作っていく。
- ②「行動がとれるのが善」という考え方ではなく、ありのままを尊重され、自分でも今の自分を受け入れ肯定し、この自分でできるということをやっていこうと思えるようになること。

そして、充電されたあかつきには、自分に合ったやり方でやりたいことに取り組んでいく、それをスタッフ(教師は先生とは言わずにスタッフという名称になる)や親が応援するとのこと。

まず、廃校の小学校を活用しているため、教室や階段は、昔からある公立学校という感じ。しかし、教室の活用の仕方が違う。

学級はクラスとは呼ばずに「ホーム」と呼び、中1から中3までの全学年がいる。自分たちで作ったおしゃれなカフェのようなスペースがあったり、一人での作業をしたい子どもには自主活動ルームでじっくり作業ができ、一人での学習をしたい子どもには個別の学習場所がある。

また、家庭を中心として育つという考え方から、「月に1回、週に1回、時々通いたい」という子どもに向けてのホームスクールというのもあり、その子たちが登校する時には、あまり人に合わなくて済むような動線に配置された教室がある。

日常の学校生活のことや子どもが主体となって作る行事等については学校運営会議で、子ども、親、スタッフの三者の立場から意見を出し合い、最終的な決定を行っている。

子どもの学力については、登校しなくなってからの学びの空白は、教師(ここではスタッフ)が手作りした教材で、子どもたちが自然と空白を埋めていけるような、そして、そこから新たな発見や成長ができる仕組みになっている。

現在は、学習アプリなどにより、このような個別の学習サポート教材が出来てきたが、この教材づくりに10年を費やしリニューアルを繰り返されているという熱意に感心した。

文科省の学習指導要領に沿っている不登校特例が校の学校運営は、工夫されたカリキュラム、教材、教室配置、そして、学校運営協議会でのお互いを尊重しながらの3者の話し合い。公立の学校運営にはなかなか見られない取組みになっている。

今回は、視察させていただき、まず、学校づくりにかける理事長、校長の熱意の大きさに感銘を受けた。普通の中学校ではできない取組みをどうやって実現させるかを教員、子ども、保護者が一緒に悩み、実現へと進めている。不登校になった子どもを持つ親御さんの話で、以前の学校では保護者会に出ることがとてもつらかったがここでの保護者会ではみんなが笑顔なことに驚いた、そして自分も笑顔になった。という言葉聞かせて頂いた。

不登校特例校には、大人になった私も受けたかったと思わせる授業や取り組みに溢れており、これを広げていくには、現教育現場における教員の負担の軽減を進めることも必要だと感じた。

出張報告書

所属	日本維新の会	氏名	寺井大地
----	--------	----	------

日時	2023年2月9日(木) ～ 2023年2月9日(木)まで
場所	東京
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ公園について学び、尼崎市に持ち帰ること。 ・不登校特例校について学び、尼崎市の不登校支援に繋げること。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① としまキッズパーク ② 東京シューレ葛飾中学校
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・としまキッズパークに加え、隣接するイケ・サンパークも見学でき、指定管理による公園の賑やかさの創出を学ぶことができた。 ・不登校特例校の素晴らしい理念と、設置への課題を認識でき、国会議員を介して国会への答弁につなげることができた。
所感	<ul style="list-style-type: none"> ① としまキッズパーク 東京はインクルーシブ公園の設置が進み、としまキッズパークもそのうちの1つ。子供がいないと入れず1時間毎の完全予約制となっているが、予約時間前には大行列になる非常に人気の公園。おやこすべり台やおやこブランコを始め、インクルーシブな遊具が配置されており、ミニトレインという子供用機関車が一番人気の遊具となっている。公園の利活用の方法によって、賑わいの有無も大きく変わることが実感できたが、どこの自治体でも同じようにできるかというとそうではなく、指定管理者の人員費など、財政的な課題もあることが認識できた。 ② 東京シューレ葛飾中学校 不登校特例校とは、学習指導要領の内容などにとらわれずに、児童生徒の

出張報告書

実態に配慮した特別な教育課程を編成している学校です。不登校児童が増加傾向にある昨今、その解決の一助になると考えられており、東京シューレ葛飾中学校を視察に行きました。

【教育理念】

「自分は何がしたいのか」という自己決定に重きを置く教育がされているのが特徴で、例えば「動物を飼いたい」・「料理が上手になりたい」等子どもたちがやりたいことを実現できる機会を確保し、一人一人にあった教育活動を促進しています。学校全体のことは、子どもと保護者、教員による「学校運営会議」を月1回開いて相談しながら進めています。

【設置への課題】私たちは本市でも特例校を設置していきたいと考えていますが、課題もあります。例えば、一般校と比べると手のかかる子どもが多い一方で、教員数は一般校と同様です。また、教室やグラウンドの広さなど、一般校と同様の設置基準を守らなければいけません。そういった要件を満たす施設は現状廃校でしか満たせないことも障壁になっています。

【国会議員との連携】

そこで、日本維新の会の国会議員と連携し、文部科学省で大臣に直接質問して頂きました。大臣の答弁では、分教室型をより周知する・加配定数も措置する・設置基準に要する経費も盛り込む等の答弁があり、今後しっかりと対策を打つことを要望しております。今後も、市だけでは解決できない課題を、県、そして国と連携し解決に向け活動をしてまいります。

出張報告書



